

# 実業家と文化交渉

－ 渋谷栄一、張謇、  
ロバート・ダラーの事例

木村 昌人

# 【授業の概要】

はじめにー文化交渉学から見たアジア太平洋地域における

I 渋沢栄一（日本）

II 張謇（中国）

III ロバート・ダラー（米国）

IV 渋沢・張・ダラーが日中米三国関係に及ぼした影響

おわりにー今後の研究課題

参考文献

はじめに



# I 渋沢栄一（1840～1931）の事例

1) 略歴－年譜参照

2) 思想形成－論語と算盤、民主化

3) 活動－合本主義

① 実業家として－合本主義－

② 慈善事業家として

③ 民間外交家として

4) 日本史の中での評価

① 民間人の立場から政府と協力しながら近代日本社会の基盤を整備した。

② 日本に経済界（財界）を創り、実業家に公益の追求（社会的責任）の重要性を認識させた。

③ 商業教育、女子教育、漢学教育の普及に貢献した。

④ 日本の民間外交、特に日米交流の基盤を創った。

# 渋沢栄一年譜

## 【第1期】

西暦	和暦	年齢	主なできごと	日本と世界の動き
1840	天保11年	0	2月13日、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる。	アヘン戦争勃発
1847	弘化4年	7	従兄尾高惇忠から漢籍を学ぶ。	
1854	安政1年	14	家業の畑作、養蚕、藍問屋業に精励。	ペリー来航(1853)
1858	安政5年	18	従妹ちよ(尾高惇忠の妹)と結婚。	日米修好通商条約、 安政の大獄
1863	文久3年	23	高崎城乗っ取り、横浜焼き討ちを企てるが、計画を中止し京都に出奔。	井伊大老暗殺(1860)
1864	元治1年	24	一橋慶喜に仕える。	外国艦隊下関を砲撃
1865	慶応1年	25	一橋家歩兵取立御用掛を命ぜられ領内を巡歴。	
1866	慶応2年	26	徳川慶喜、征夷大將軍となり、栄一は幕臣となる。	長州征伐、薩長同盟
1867	慶応3年	27	徳川昭武に従ってフランスへ出立(パリ万博使節団)。	大政奉還、王政復古
1868	明治1年	28	明治維新によりフランスより帰国、静岡で慶喜に面会。	戊辰戦争(1868~1869)

## 【第2期】

1869	明治2年	29	静岡藩に「商法会所」設立。 明治政府に仕え、民部省租税正となる。 民部省改正掛掛長を兼ねる。	東京遷都 東京・横浜間に電信開通
1870	明治3年	30	官営富岡製糸場設置主任となる。	平民に苗字使用許可
1871	明治4年	31	紙幣頭となる。『立会略則』発刊。	廃藩置県
1872	明治5年	32	大蔵少輔事務取扱。抄紙会社設立出願。	新橋、横浜間鉄道開通
1873	明治6年	33	大蔵省を辞める。第一国立銀行開業・総監役。 抄紙会社創立（後に王子製紙会社・取締役会長）。	国立銀行条例発布 地租改正条例布告
1874	明治7年	34	東京府知事より共有金取締を囑託される。	
1875	明治8年	35	第一国立銀行頭取。 商法講習所創立。	
1876	明治9年	36	東京会議所会頭。東京府養育院事務長（後に院長）。	私立三井銀行開業
1877	明治10年	37	摂善会創立（後に東京銀行集会所・会長）。 王子西ヶ原に別荘を建てはじめる。	西南戦争
1878	明治11年	38	東京商法会議所創立・会頭（後に東京商業会議所・ 会頭）。	
1879	明治12年	39	グラント将軍（元第18代米国大統領）歓迎会 （東京接待委員長）。	
1880	明治13年	40	博愛社創立・社員（後に日本赤十字社・常議員）。	
1882	明治15年	42	ちよ夫人死去。	日本銀行営業開始
1883	明治16年	43	大阪紡績会社工場落成・発起人（後に相談役）。 伊藤兼子と再婚。	鹿鳴館開館式
1884	明治17年	44	日本鉄道会社理事委員（後に取締役）。	華族令制定
1885	明治18年	45	日本郵船会社創立（後に取締役）。	内閣制度制定

			東京養育院院長。 東京瓦斯会社創立(創立委員長、後に取締役会長)	
1886	明治 19 年	46	「竜門社」創立。東京電灯会社設立(後に委員)。 女子教育奨励会	
1887	明治 20 年	47	日本煉瓦製造会社創立・発起人(後に取締役会長)。 帝国ホテル創立・発起人総代(後に取締役会長)。	
1888	明治 21 年	48	札幌麦酒会社創立・発起人総代(後に取締役会長)。	
1889	明治 22 年	49	東京石川島造船所創立・委員(後に取締役会長)。	大日本帝国憲法公布
1890	明治 23 年	50	貴族院議員に任ぜられる。	第一回帝国議会
1891	明治 24 年	51	東京交換所創立・委員長。渋沢同族会、渋沢家法定 める。	
1892	明治 25 年	52	東京貯蓄銀行創立・取締役(後に取締役会長)。	日清戦争勃発(1894)
1895	明治 28 年	55	北越鉄道会社創立・監査役(後に相談役)。	日清講和条約調印
1896	明治 29 年	56	日本精糖会社創立・取締役。第一国立銀行が営業満期 により第一銀行となる。日本勸業銀行設立委員。	
1897	明治 30 年	57	澁澤倉庫部開業(後に澁澤倉庫会社・発起人)。日本 女子大学校創立発起人	金本位制施行
1898	明治 31 年	58	韓国視察(5月に韓国皇帝に謁見)。	
1900	明治 33 年	60	日本興業銀行設立委員。男爵を授けられる。韓国訪 問	立憲政友会結成。北清事 変。

### 【第3期】

1901	明治34年	61	日本女子大学校開校・会計監督。 東京・飛鳥山邸を本邸とする。	
1902	明治35年	62	兼子夫人同伴で欧米視察。ルーズベルト大統領と会 見。	日英同盟協定調印
1904	明治37年	64	風邪をこじらせ長期に静養。	日露戦争勃発
1906	明治39年	66	東京電力会社創立・取締役。 京阪電気鉄道会社創立・創立委員長（後に相談役）。	鉄道国有法公布
1907	明治40年	67	帝国劇場会社創立・創立委員長（後に取締役会長）。	恐慌、株式暴落
1908	明治41年	68	アメリカ太平洋沿岸実業家一行招待。	
1909	明治42年	69	多くの企業・団体の役員を辞任。辛酉事件 渡米実業団を組団長として渡米。タフト大統領と会 見。	伊藤博文暗殺。
1910	明治43年	70	政府諮問機関の生産調査会創立・副会長。	日韓併合
1911	明治44年	71	勲一等に叙し瑞宝章を授与される。	辛亥革命
1912	明治45年、大正元年	72	ニューヨーク日本協会協賛会創立・名誉委員長。 帰一協会成立。	
1913	大正2年	73	日本結核予防協会創立・副会頭。（後に会頭） 日本実業協会創立・会長。	
1914	大正3年	74	日中経済界の提携のため中国訪問。	パナマ運河開通。第一次世界大戦勃発
1915	大正4年	75	パナマ運河開通博覧会のため渡米。 ウイルソン大統領と会見。渋沢同族株式会社設立。	対中国二ヶ条条約調印
1916	大正5年	76	第一銀行頭取等を辞め実業界から引退。日米関係委員 会が発足・常務委員。二松学舎舎長。	工場法施行。

1917	大正 6 年	77	日米協会創立・名誉副会長。	ロシア革命。
1918	大正 7 年	78	渋沢栄一著『徳川慶喜公伝』（竜門社）刊行	米騒動
1919	大正 8 年	79	協調会創立・副会長。	ヴェルサイユ条約調印
1920	大正 9 年	80	国際連盟協会創立・会長。 子爵を授けられる。	株式暴落（戦後恐慌）
1921	大正 10 年	81	ワシントン会議視察と排日問題善後策を講ずるため 渡米。 ハーディング大統領と会見。	原敬暗殺。
1923	大正 12 年	83	大震災善後会創立・副会長。	関東大震災
1924	大正 13 年	84	日仏会館開館・理事長。 東京女学館・館長。	米国で排日移民法成立
1926	大正 15 年	86	日本太平洋問題調査会創立・評議員会長。 日本放送協会創立・顧問。	
1927	昭和 2 年	87	日本国際児童親善会創立・会長。 日米親善人形歓迎会を主催。	金融恐慌勃発
1928	昭和 3 年	88	日本航空輸送会社創立・創立委員長。 日本女子高等商業学校発起人。	
1929	昭和 4 年	89	中央盲人福祉協会創立・会長。宮中参内（単独）陪食。	世界大恐慌はじまる
1930	昭和 5 年	90	海外植民学校顧問。	金輸出解禁
1931	昭和 6 年	91	日本女子大学校第三代校長。11 月 11 日永眠。	満州事変

出典：渋沢栄一記念財団ホームページに加筆作成。

## II 張謇（1853～1926）

1) 略歴—中国の実業家・政治家 字は季直

1853年 江蘇省南通に生まれる。1894年 科擧の試験に、状元（首席）合格。日清戦争後、1903年に来日し、大阪の内国博覧会を見学後、日本各地を回り近代化・産業化の実態を学ぶ。清末の政界・実業界で活躍、中国の「渋沢栄一」と呼ばれる。

2) 思想—儒教道徳。立憲君主論者。

3) 活動—

① 実業家として—故郷の南通に大生紡績など紡績、造船などの近代産業を興し、実業界の大物となった。

② 慈善事業家として—教育事業

③ 民間外交家として—1915年パナマ運河開通記念サンフランシスコ万国博覧会に実業団を率いて渡米し、東海岸まで足を延ばしウィルソン大統領など米国政財界人と面談。

4) 中国史における評価

① 中国近代社会の先駆的な企業家で人材育成に貢献した。

② 中国の対米民間外交の嚆矢。

### III ロバート・ダラー（1844～1932）

1) 略歴－スコットランドの材木商の家に生まれる。12歳の時にカナダのオタワに移住し、その後カリフォルニアに移り1901年に広東貿易を開始。以後夫人とともに日本、中国、東南アジアを歴訪し、ダラー汽船会社により材木貿易を拡大した。夫人は中国でキリスト教布教活動を行う。1908年～1910年にかけて渡日実業団、渡清実業団に参加し、日中米の実業家交流に尽力。第一次世界大戦後はダラー汽船、世界一周航路を開発。1929年以降の世界大不況の影響を受ける。

2) 思想－キリスト教、

3) 活動－

①実業家として－米国を世界一の海運国にすることを目標

②慈善事業家として－故郷のスコットランド、ファルカークに多額の寄付を行う。

③米国太平洋沿岸と中国、日本との交流を促進する。

4) 米国史における評価

①米国連邦政府に太平洋地域海運の重要性を喚起。

②米国の対アジア民間経済外交の嚆矢。

## IV 渋沢・張・ダラーが日中米関係に及ぼした影響

1) 日中米実業家民間交流の基盤を創る。

2) ビジネスと慈善事業（フィランソロピー）の分野での文化交渉を通じて、日米中の思想や活動が相互に影響し、三国の経済社会と文化にヨーロッパにはない新しいものを生み出す。

例) ダラー汽船が中国人船員を大量に雇用。

個人の往来を超えた大型実業団の相互訪問

日本と中国で開学したミッションスクールと女子教育

3) 米国におけるアジア人移民排斥運動の鎮静化

# おわりに – 今後の研究課題

## <参考文献>

- \* 『渋沢栄一 – 日本のインフラを創った民間経済の巨人』 木村昌人、ちくま新書、2020年
- \* 『はじめての渋沢栄一』 渋沢研究会編、ミネルヴァ書房、2020年
- \* 『張謇と渋沢栄一』 周見、日本経済評論社、2010年
- \* 『近代東アジアの経済倫理とその実践』 陶徳民、姜克實、見城悌治、桐原健真編著、日本経済評論社、2009年
- \* 『日米民間経済外交 1905～1911』 木村昌人、慶応通信、1989年
- \* The American President Lines and its forebears, 1848-1948, by John Nieven, Delaware, 1987